

## むかしの妙岐の鼻

妙岐の鼻の南東に位置する本新島干拓は、1947年～1963年(昭和22年～38年)にかけて行われており、左下の写真は、干拓前に撮影されたものです。右下の近年撮影されたものと比べると旧堤防と現在の堤防との位置関係や全体形状の違いが確認できます。

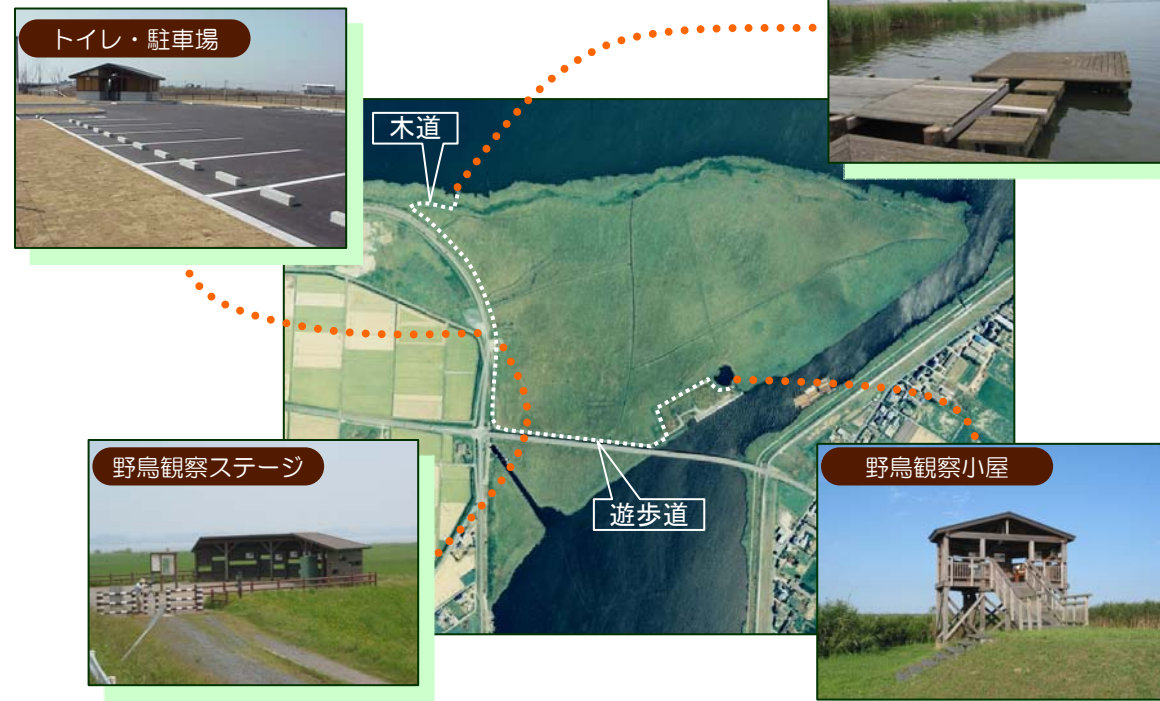


1948年3月撮影

2011年1月撮影

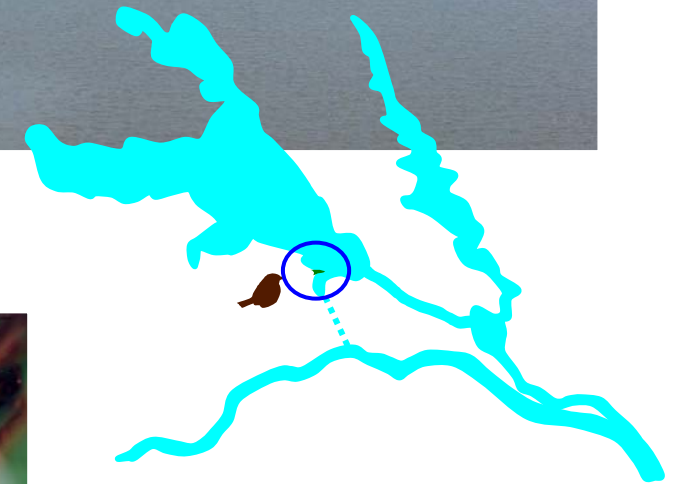
## 妙岐の鼻の施設のご案内

妙岐の鼻には、野鳥観察ステージ、野鳥観察小屋などの野鳥観察施設や遊歩道、水辺デッキ、木道といった自然を観察する施設が整備されています。また、堤防沿いには、トイレ・駐車場も完備しています。



# 妙岐の鼻

## 自然がくれた贈り物



お問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構  
利根川下流総合管理所

〒300-0732 茨城県稲敷市上之島 3112番地

Tel. 0299-79-3311(代)

Fax. 0299-79-3316

<http://www.water.go.jp/kanto/kasumigaura/>



平成17年 7月14日初版  
平成23年11月01日改訂



独立行政法人水資源機構 利根川下流総合管理所

# 生命を育む豊かな自然 「妙岐の鼻」

## 妙岐の鼻とは

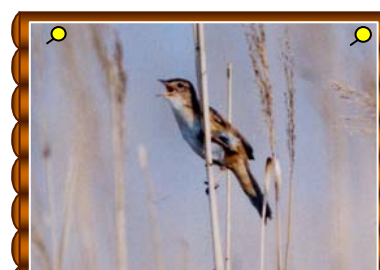
妙岐の鼻は、霞ヶ浦(西浦)の南西に位置する面積約50haの広大な低湿地です。

この地区には、ヨシを主体とする霞ヶ浦最大の湿性植物群落が生息し、環境庁による第2回自然環境保全基礎調査(昭和53年度)では、妙岐の鼻のヨシ、マコモ、ガマ群落は「自然の状態を保っている草原として保存の価値がある」として、特定植物群落に選定されています。このヨシ原には、さまざまな鳥類が生息しています。霞ヶ浦全域でよく見られるオオヨシキリが数多く生息し、オオセッカにとっては、越冬地、繁殖地として重要な場所となっている他、霞ヶ浦周辺では、コジュリンの繁殖が確認されています。

このような豊かな自然にふれあえる妙岐の鼻は、環境学習の場としても利用されるなど人と自然との関わりの深い場所となっています。

## 妙岐の鼻で見られる鳥類

妙岐の鼻では、時期によって異なりますが、各季節20~40種類程度の鳥類が観察できます。



**オオセッカ(ウグイス科)**

環境省RDB 絶滅危惧 I B類  
種の保存法 国内希少野生動物種  
茨城県RDB 危急種



**コジュリン(ホオジロ科)**

環境省RDB 絶滅危惧 II 類  
種の保存法 指定なし  
茨城県RDB 希少種



**オオヨシキリ(ウグイス科)**

環境省RDB 指定なし  
種の保存法 指定なし  
茨城県RDB 指定なし



**ヨヨシキリ(ウグイス科)**

環境省RDB 指定なし  
種の保存法 指定なし  
茨城県RDB 希少種



オオセッカは、湿原に生息する留鳥で、国内での生息地は数ヶ所、国外では、中国に若干数が生息するだけの国際的に数の少ない貴重な種です。ここ妙岐の鼻は、越冬地、繁殖地の両面から重要な場所となっています。繁殖期には「ジュクジュククク…」と特徴的なさえずりをします。

コジュリンは、本州と九州に限られた草原に生息する留鳥で中国北東部と日本にのみ分布する国際的に貴重な種です。繁殖期の雄は、頭巾をかぶったように頭が黒くなっているのが特徴です。ここ妙岐の鼻では、繁殖も行われ、年間を通して観察できます。「ピッチリリ ピリリ」というさえずりをします。

オオヨシキリは、北海道から九州までの各地のヨシ原に飛来して繁殖する夏鳥で、国外に広く分布しています。ここ妙岐の鼻は、4月の終わり頃飛来し、丈が高く太いヨシを好みます。「ギョギョシ ギョギョシ ケンケン」というさえずりをします。

ヨヨシキリは、北海道から九州までの各地のヨシ原に飛来して繁殖する夏鳥で、国外では、ウスリーから中国東北部にかけて分布しています。ここ妙岐の鼻には、5月頃飛来し、細めのヨシが生えている場所で繁殖します。ヨシや灌木の頂部で「キリキリ ピッキョリリリ ピリリリ」というさえずりをします。

## 妙岐の鼻の環境調査

妙岐の鼻では、環境の変化を把握することを目的として、毎年6月に鳥類調査、秋季に植物調査を実施しています。



## 妙岐の鼻で見られる植物

妙岐の鼻で行った植物調査では、約100種の植物が確認されています。



**ヨシ(イネ科)**

ヨシは、霞ヶ浦全域で見られる高さ2~3mの抽水植物で、茎を密生して大群落をつくります。



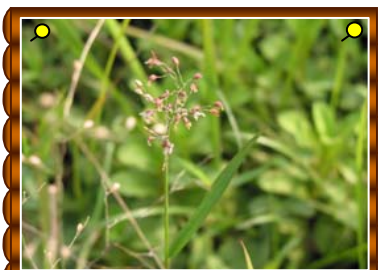
**カモノハシ(イネ科)**

カモノハシは、高さ約0.6mの多年草で、夏から秋にかけてつける2本の赤紫の花穂がカモのくちばしに似ていることからこの名が付けられました。



**カササゲ(カヤツリグサ科)**

カササゲは、高さ約1mの湿生植物で、群落を作り、花を咲かせます。昔は乾燥させた葉が、蓑笠を作るのに使用されました。



**チゴザサ(イネ科)**

チゴザサは、高さ約0.3~0.5mの多年草で、葉は硬く、6~8月に多数の穂状の花を咲かせます。



**カドハリイ(カヤツリグサ科)**

カドハリイは、湿地に生える多年草で、霞ヶ浦でしか確認することが出来ない貴重な植物です。

## 試験的な取り組み(草焼き)

ヨシをはじめとした植生群落の保全を目的として、植物が枯れる冬季に、試験的な取り組みとして小規模な草焼きを実施しています。

